

## # 386 『反キリスト帝国の首都：政治的大バビロンの崩壊』

## 黙示録 18 章前半

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

皆さん、こんばんは。わたくしの襟元、ちょっと見ていただきたいんですが、これはウクライナの国旗をあしらったリボンなんです。YouTubeで『ざっくり黙示録』を大変楽しみにしてくださっている視聴者の方が、仲間のクリスチャンたちと一緒に ロシア大使館の前で抗議しようと集団で行って、ウクライナの国旗をあしらったポスターを掲げて「NO WAR!」「STOP PUTIN!」。12時間ほど立ちっぱなしで。クリスチャンですから暴力的な抗議はしません。無言アピールしながら抗議をしていたそうです。その方が作られた物で、ぜひ使ってくださいということでしたので、喜んでさせていただきました。

ウクライナ、踏ん張ってますよね。当初は一方的に攻め込まれたのですが、立ち直ってからの巻き返しが本当にすごくて、一部は奪還している所もあるそうです。なぜ、軍事力で1/10以下のウクライナが、10倍のロシアに対して見事な戦いぶりを発揮できているのか。

1つには、ロシアの情報が筒抜けになっていると言われてるんですよ。

2月24日に国境突破して侵攻が始まったのですが、国境沿いで1年掛けて演習していたロシア軍兵士たちは、「ずっと演習だと思っていた」と言うんです。ところが、これは演習じゃなくて本当の戦争だ、と通知を受けたのは侵攻する24時間前。だから24時間で準備して行かなければならなかったのですが、あまりにも突然というか、準備不足で入ったので、無線の暗号化キーの交換ができなかったというのです。

暗号化キーの交換ができないということは暗号通信ができない。なので、ロシア軍内部は高周波領域で情報交換しているのですが、なんとその中身を、ウクライナのアマチュア無線愛好家たちが傍受できるようなずさんな状態。ウクライナ軍はもちろんそれを傍受しているので、ロシア軍将校が現時点でどこにいるかがピンポイントで分かっている狙撃しているんですね。7人亡くなりました。

戦争に限ったことではなく、どんなことでも情報なんです。これからロシアがどんな作戦に出るのかを盗み聞きできる。じゃじゃ漏れ状態。筒抜け状態。それならば準備できるんですよ。

今見ている黙示録は終末預言に関する情報ですよ。情報をもらっている者は、前もって準備することができるんです。なぜ聖書が終末預言・これからの世界がどのように動いて行くのかについて語っているのか。私たちに準備させるためです。キリストがまた来る前に、キリストといつ出会ってもいいように準備させ、整えるために聖書預言があるんですね。

さて、今日はもう32回。今の予定では来年まで続きそうで、“ざっくり”の割には“じっくり”やっているんですけど。今日は黙示録18章前半ですが、その前に、今日見るところをおさらいしたいと思います。

やがてキリストが、クリスチャンたちを携挙するために迎えに来ます。

携挙の瞬間、地上のクリスチャンたちは皆 天に引き上げられていなくなります。だから、いつまでも東住吉キリスト集会があるわけじゃない。皆様が来られてもガランとしてる、もぬけの殻という時が来ます。

そして、反キリストという人物が登場し、イスラエルと7年間の安全保障条約を結びます。

その調印式の日が艱難時代の始まりです。それから艱難時代が7年間続きますが、その終わりはいつで、何が起こっているのかは分かっています。キリストの地上再臨が起こるんですね。

つまり艱難時代は、反キリストとイスラエルが安全保障条約を結んだ日から、イエス・キリストがもう一度地上に来られるまでの7年間。

艱難時代は前半と後半に分けることができます。

前半には、7つの封印と7つのラッパによって段階的に起こることが預言されていて、既に解説済みです。

前々回、黙示録 16 章で7つの鉢についてお話ししましたが、これは後半3年半ではなく、キリストの地上再臨の手前、長くても1週間だと考えています。その根拠は今日説明します。

おそらく数日内でそれが終わるでしょう。

18章前半では、地上再臨の直前にいったいどんなことが起こるのか。結論を言うと、反キリスト帝国の首都／政治的大バビロンが崩壊する。

今 超大国、世界に号令を掛けるのに一番大きな政治力を持っているのはもちろんアメリカですが、バイデン大統領はどこから号令を掛けるか。ワシントンです。ワシントンがアメリカの首都です。

プーチン大統領はどこから号令を掛けてるか。モスクワのクレムリン。あそこがロシアの中心です。

では、岸田総理大臣はどこから？ 東京都千代田区永田町。永田町に首相官邸もあるし、国会議事堂もあるし、議員会館もあって、日本の政治の中枢は全部永田町。

行ったら分かりますが、地下鉄で永田町に行くと、あれ地下何階ですかね、地下4階5階くらいあるんじゃないですか。ものすごく深いですよ。シェルターですよ。日本の政治の中心はやはり東京なんです。東住吉ではない。

同じように、全世界を支配する反キリスト帝国は首都を持ちます。それは政治的大バビロン。

これは文字通り、バビロンという場所に建てられる首都です。バビロンは今のイラクにあるんです。

皆さん、想像できますか？ 世界の政治の中心はワシントン、経済はニューヨーク、ファッションのパリなど、色々きらびやかな都がありますが、そんなもん全然比較にならない 人類史上空前絶後の、リッチできらびやかで大きなスケールを持つ大都市。全ての政治・経済・宗教のセンターになる町。

それがイラクに出来ると言うんです。イラクが世界の中心。

イラクのバビロンに、そのような反キリスト帝国の首都ができる。

バビロンは現在あります。2019年頃だったと思いますが、バビロンは世界遺産に登録されました。

昔ネブカドネツアル王の時代、ここにバビロニア帝国があって、その首都がバビロン。

そこにバベルの塔が建てられました。バベルの塔を最初に建てたのはニムロデという人物ですが、ネブカドネツアル王は一度崩された塔を再建したんです。その跡を世界遺産に登録したら一発で通った。

佐渡の金山どころの話ではないんですよ。それで今、世界的な注目を浴びています。

サダム・フセインはここにケーブルカーを建てて、世界中から観光客を呼び込もうとしました。

しかし、2003年にイラク戦争がありましたね。アメリカがバグダッドに進撃して行く時、ポーランド軍と一緒に最前線基地に据えたのがバビロンです。その時のアメリカ軍のキャンプの張り方が雑だったので、遺跡がずいぶん傷ついたと言われています。

バビロンって本当にあるんですよ。今は世界遺跡の管理人たちはいますが、人はほとんど住んでいません。

ここは世界のセンターではない。実際に活動している町ではないけど、反キリストが登場した時にはバビロンは復活します。それは、今のバグダッドから90キロくらい南に行った所です。

今日お話しする内容は、“この大バビロンが崩壊します。滅ぼされます” という宣告の預言内容なんです。

18章前半で3つのことをお話ししますが、最初にざっくり言います。

- 1) 大バビロンへの判決宣言。天使が現れて「大バビロンは崩壊する。倒れた」という宣言をします。
- 2) 大バビロンにいたキリストを信じる人たちに、「すぐにそこから逃れなさい」と警告・励ましが与えられる。
- 3) 大バビロンが滅びる判決理由。大バビロンはゆっくり崩れるのではなく一日で倒れます。昔ネブカドネツアル王が築き上げた大バビロンも、キュロス王によって一日で滅びたんですよ。一日です。それがまた再現する。

- 1) 大バビロン崩壊の判決。2) バビロンにいるクリスチャンたちへの勧め。3) 判決理由。

## 1) 大バビロン崩壊の判決

### 黙示録 18 章

- 1 **その後（のち）、私は、もう一人の御使いが、大きな権威を持って天から下って来るのを見た。地はその栄光によって照らされた。**
- 2 **彼は力強い声で叫んだ。「倒れた。大バビロンは倒れた。」**

もう一人の御使いが、大きな権威を持って天から下って来るのを見た。

非常に高い地位にある御使いが、大きな権威を託されて地上に下り立った時、地はその栄光によって照らされた。すごく目立ったことでしょう。

というのは、この時の世界は昼でも暗いんです。3段階で、まず太陽の光が削られて、悪霊たちが出て来て、煙が出て来て。それで昼間でも非常に薄暗い。太陽や月の光がほとんど届かない世界。艱難時代の特徴は闇の世界です。暗いんですね。暗いところに大きな権威を持った天使が降りて来たので、ちょうどスポットライトの光源みたいになって地が照らされた。何のために地を照らしたのか。皆に注目させるためだと思います。どうしても聞いてもらいたいことがある。このシーンを見る時、一つ思い出すことがあるんですね。

話は変わるんですけど、今までイスラエルに 20 回行きました。1 回目は 35・36 年前、正確には覚えていないんですが、1 ドル 240 円なんですよ。だから、イスラエルに行って帰って来る 1 つのツアー、12 日くらいで 50 万円以上しました。それでも安いと思ったんですね。やっぱりクリスチャンとして、イスラエル…もう見るもの聞くもの、すぐに病気になるました。“もう一度行きたい病”。1 度だけでは足らへん。一緒に行ったメンバーは「ヘブライ語やります！」とかで、今でも続いているので偉いなと思います。

エルサレムに 4 泊か 5 泊して、とても楽しい時間を過ごしたんですが、ある夜、申し込んだ時にはなかった“ナイトショーに行く”というオプションがあって、ほぼ全員行ったと思います。エルサレムの新市街にある劇場に行くと、ヘブライ語で歌われるイスラエル民謡というかフォークソングに合わせて、ダンサーたちが踊りまくるんです。1 時間半くらい。寂しいような、でもリズムは楽しいようなフシギな音楽。それが後に、私の大好きな曲になっていくんですけど。見終わって その劇場を出たその時、一緒に行ったガイドがぼつんとひと言。「この劇場はアイヒマン裁判の会場跡なんだよ。」ええっ！ そういう話は先に言ってよ！と。

アイヒマン、分かりますか？ アイヒマン（1906-1962）はヨーロッパ中からユダヤ人をかき集めて、アウシュビッツはじめ絶滅収容所に送り込む ユダヤ人移送の担当者。現場の最高責任者です。ナチスのゲシュタポ（秘密警察）の中で、アイヒマンの位は決して高くない。下っ端です。だけど、実際にユダヤ人を貨物車に詰め込んで絶滅収容所に送り込む、その計画を立てる最高責任者。

ナチスが倒れて、アメリカ軍によって逮捕されました。しかし脱走したんですね。別人になりすましてイタリアに逃げ、カトリックのネットワークを使って南米のアルゼンチンに逃げた。そして、リカルドなんとかという偽名を使い、全く新しい別人として、アルゼンチンですーっと潜伏生活をしていました。しかし、ドイツに残していた妻と子供たちを呼び寄せて足が付き、モサドによって連行・拉致されてエルサレムに連れて来られたんです。

アイヒマンの裁判の間中、彼一人のために、他の囚人全員を他の刑務所に移しました。何百人も収容できる刑務所の中にアイヒマン一人だけ。奪還されないように、イスラエルはありとあらゆる手を打った。そうして、アイヒマン裁判が始まりました。

アイヒマンによって酷い目に遭ったホロコーストの遺族たちが、「絶対に闇の世界で暗殺しないように。そんな私恨を晴らすような、プライベートな恨みを晴らすような事件で裁いてはいけない。人類に行った罪として法廷に立たせ、法律に基づき、証言者の証言を全部出させて、ナチスがどんなことをやったのかを皆の前で公表しなければならない。」

彼を防弾ガラスのボックスに入れて裁判をやるのですが、(\*前にあるアクリル板を示して) ちょうどこんな感じなんです。ちょっとアイヒマンになった感じですが。

イスラエルには死刑がありません。アイヒマン裁判はイスラエル建国から 12 年しか経ってない時です。それまですごい犯罪を犯した人はいるでしょうが、死刑になった人は一人もいません。だけど、ナチ戦犯については別の法律が用意されていて、極刑は死刑。その死刑判決がイスラエルの法廷で出たことは 1 回もない。いよいよ最終結審が出る日にはみんなが注目し、その様子はテレビで中継され、翌日には録画されたものが世界 34 カ国で放映されました。裁判長が「判決」と言った時、グーっとクローズアップされたんですね。罪に対してどんな判決が下るか、皆に聞かせたい。見せたい。絞首刑でした。しかし、絞首刑と判決が言い渡されて、実際に執行されたのは半年後なんです。

それと同じように、ここで裁判官／判決を言い渡す役割を託された御使いが下りて来て、判決を言うんですね。「**倒れた。大バビロンは倒れた。**」  
倒れたですが、まだ倒れてないんです。判決は**倒れた**。しかし、実際に倒れるのはこの瞬間ではなく、まだ時間があるんです。判決は**大バビロンは倒れた**。

倒れた後どうなるのか。

**2 それは、悪霊の住みか、あらゆる汚(けが)れた霊の巣窟、あらゆる汚れた鳥の巣窟、あらゆる汚れた憎むべき獣の巣窟となった。」**

これは、キリストの地上再臨の後に千年王国という時代が始まりますが、その間、バビロンは悪霊の巣窟になるという預言です。艱難時代には世界一リッチで キラびやかで 大きくて 惚れ惚れする都だったけど、千年王国の時代、悪霊たちがバビロンに閉じ込められる。千年王国の間、世界で一番薄気味悪い 近寄りたくない 最もおぞましくて最低の場所。今は最高にピカピカ光っているかもしれないけど、ここは最悪最低の場所になる、という判決がここで下されます。

どうして そうなるのか。

**3 すべての国々の民は、御怒りを招く彼女の淫行のぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と淫らなことを行い、地の商人たちは、彼女の過度の贅沢によって富を得たからだ。**

富を得たからだ。間違ったらいけないのは、聖書は富を得ることが罪だとは言ってません。

金持ちは金を持っているから罪人…そんなことは絶対ないです。  
富を得ることそのもの、例えば、真っ当な仕事をして富を得るのは罪ではありません。

ここで何が罪だと言っているのか。**彼女**（バビロン）と淫らなことを行った。  
ヘブライ語でも都市の名前は女性名詞で、エルサレムは“彼女”と言われます。大バビロンも女の人になぞらえているんですね。ここでの**富**は、反キリストを頂点とする世界システムを支えることによって見返りに得た富。それで栄えることが罪だ、と言ってるんですね。

これは適切かどうか分かりませんが。  
ここに3種類の間人間が出て来ます。**地の王たち・地の商人たち・すべての国々の民**。  
**地の王たち**は政治家。この時7人います。その下に**地の商人たち**。ロシアでいうならオリガルヒみたいな人たちでしょうね。権力者と繋がることで莫大な富を儲けている人たち。そして、その下に**すべての国々の民**がいる。彼らはみな、反キリスト帝国に仕えることによって富を得ている。

北朝鮮は国民を3つの階層に分けています。

①**核心階層**。主体思想に身も心も染まっている人たち。別名**トマト階層**。皮も中身も赤いから。外面（そとづら）だけでなく、中身までもが主体思想に染まり切っている階層。

②**動揺階層**。揺れ動く。表面上は主体思想に忠実。心の中は半信半疑。どこまで本物の忠誠心を持っているのか疑わしい人々。別名**リンゴ階層**。外は赤いけど中は白い。表面上は金一族に従っているけど、中身はどうか分からんぞ。

③**敵対階層**。別名**ナシ（梨）階層**。外も中も赤くない。敵対階層になると、朝鮮労働党に入党できません。また、軍隊に入ることもできません。高等教育を受けることもできません。進学なんかできません。金一族が町に巡回に出て来た時、道端でバーツと旗を振ることもできません。疑われているから。家に閉じこもってないとダメです。そして、敵対階層の下の方の人たちは皆、収容所に送られています。

どういう人たちが敵対階層か。意外なことに、朝鮮戦争の時、共産主義を信じて韓国から北に流れて来た人たち。みんな敵対階層です。自らの意思で北朝鮮に行ったのに、なぜ敵対レッテルを貼られるのか。この人たちは西側の自由を経験してますでしょ。生まれた時から共産主義しか見聞きしてない場合は不満を持ちにくいけど、自由の味を知った上で北朝鮮に来たらいつ反旗を翻すか分からない。それで敵対階層です。日本から北朝鮮に渡った在日の人たちも、日本で自由を知っていたので敵対階層です。そしてクリスチャンたち。プロテスタントもカトリックも関係ない。クリスチャンは敵対階層。

敵対階層は何のために生かされているのか。利用価値があるんです。核心階層は独裁者と繋がることで特権をもらっているけど、敵対階層はまず見せしめの対象。独裁者に逆らったらこんなに酷い目に遭うんだぞ、という広告塔ですね。同時に、日本から行ったそういう人たちは人質です。何の咎もないような人たちを危険にさらし、ある場合は苦しめて殺して、そういうことの上に繁栄しているのが独裁帝国ですが、これをもっともっと深刻にしたものが反キリスト帝国の首都です。次回話しますが、反キリスト帝国の首都では何が売買されているか。“人間のいのち”だと書いてあるんです。

反キリスト帝国において、特に目の敵にされている人たちがいます。それは、反キリストではなくイエス・キリストを自分の救い主として信じている人たち。この人たちを徹底的に弾圧し、迫害し、命を奪う。そういうことで富を得ている。人身売買で富を得るようなシステムが反キリスト帝国。そのセンターが大バビロンです。なので判決がある。

2) バビロンにいるクリスチャンたちへの勧め。「そこから逃れよ。」

4 それから私は、天からもう一つの声がこう言うのを聞いた。「わたしの民は、この女の罪に関わらないように、その災害に巻き込まれないように、彼女のところから出て行きなさい。」

これは凄いことですね。わたしの民とはイエス・キリストを信じた人たちです。大バビロンの中にイエス・キリストを信じている人たちがいた。大バビロンは反キリストのおひざ元です。そこで、どうやって福音を聞いたんでしょう？ こんな悲惨な事が起こっているセンターで、なぜキリストを信じる人たちが起こされているんでしょう？ 悪がどんなにのさばっていてもね、神様の働きは、不思議な方法で滞ることなく進むんですね。

私が連絡を取り合っているグループに SGA というグループがあります。S はスラブ。G はゴスペル。A は忘れました。ロシアやウクライナやベラルーシに、キリストの福音を伝えている宣教団体です。ロシア・ウクライナに私たちと同じような福音教会が 2,200 あるようです。

そのレポートを見ると、ロシアの教会で、牧師をしているウクライナ人と信者のロシア人たちが、国境に行って神に祈っています。ウクライナの福音派の教会で牧師をしているロシア人たちは、雪の中でひざまずいて、この戦争が早く終わるように、そして互いのために神に祈っています。戦争があると 敵味方に引き裂かれているように思うかもしれませんが、クリスチャンたちはそうならないです。国境を越えています。

そしてその中で、かつてないほどにイエス・キリストを信じる人たちが起こされています。一見悲惨な事が起こっていて、悲惨な事だけがニュースになっていますが、神は人知れずあらゆるものを用いて、人が一番必要としているもの（永遠のいのちの救い）をもたらすことができるお方です。

わたしの民は、この女の罪に関わらないように、その災害に巻き込まれないように、彼女のところから出て行きなさい。

もしかしたら、よそで信じたけどバビロンまで連れて行かれた、というクリスチャンもいたと思います。でも、バビロンで福音を聞いてイエス・キリストを信じた人もいるかもしれません。いずれにしても、こんな反キリストの御膝元にも ちゃんとクリスチャンがいた。彼らはそこで証しをするという任務があったけど、もう時間切れ。「今すぐ出なさい！ いよいよ大バビロンへの裁きが近づいているから。」

### 3) 判決理由

7 彼女（大バビロン）が自分を誇り、ぜいたくにふけた分だけ、苦しみと悲しみを彼女に与えなさい。彼女は心の中で『私は女王として座し、やもめではない。だから悲しみにあうことはない』と言っているからです。

なぜ裁かれるのか。「私は女王として座し、やもめではない。だから悲しみにあうことはない」と言っているからです。心の中で。

この「」の中は反キリストのスピリッツそのものなんですが、この言葉はここが初めてではないんです。

イザヤ書 47 章。イザヤ書は今から 2700 年くらい前に書かれた預言書で、書かれてから 100 年後くらいに起こることを前もって預言していますが、その中身がバビロンの崩壊なんです。

1 「おとめ、娘バビロンよ。下って行って、土の上に座れ。」

バビロンはどこの国にも侵略されたことがない。奴隷になったことがない。だから、まるで王女のように。下って行って、土の上に座れ。いつまでもその繁栄が続くとは思わな、ということです。

**5 娘カルデア人たちよ。**カルデアとバビロンは同じ意味。同じ場所で違う名称です。

**黙って座り、闇に入れ。あなたはもう、国々の女王と呼ばれることはないからだ。**

**6 わたしは、わたしの民を怒って、わたしのゆずりの民を汚（けが）し、彼らをあなたの手に移したが、あなたは彼らをあわれまず、老人にも、ひどく重いくびきを負わせた。**

**7 あなたは『いつまでも女王でいよう』と考えて、これらのことを心に留めず、自分の終わりのことを思うことさえしなかった。**

このカルデア／バビロンは、BC6 世紀にユダの国を滅ぼして、バビロン捕囚としてユダヤ人たちを連れて行った昔のバビロンのことです。ユダの罪を罰するために、神が彼らを器として用いただけでしたが、「我々が強いからだ！」と勘違いした。「我々が天下無双だから出来たんだ」と思い込んでいる そのバビロンに対して「思い上がるんじゃない。あなたがたもやがて滅びる」と、ここで預言するのです。

実はバビロンに関する預言の中で、BC6 世紀のバビロンに言われていることと、終末預言に出て来る反キリスト帝国の大バビロンに言われていることが重なったり、兼ねていたりするんですね。

どの部分がそうなのかは、**黙示録**に照らさないと分かりません。

**8 だから今、これを聞け。楽しみにふけり、安心して住む女よ。心の中で、『私だけは特別だ。私はやもめにはならないし、子を失うことも知らなくてすむ』**と言う者よ。

**9 子を失うことと、やもめになること、この二つが一日のうちに、瞬く間にあなたのところにやって来る。**

先ほど、「私は女王として座し、やもめではない。だから悲しみにあうことはない」（**黙示録 18 章 7 節**）とうそぶいていたのですが、**イザヤ書 47 章 5 節-8 節**の引用ですね。

心の中で、『私だけは特別だ。』これは紙の聖書を読む人にだけ分かることなんですけど、\*マークが付いていて、欄外注を見ると“直訳：**私だけで、ほかにはいない。**”それを**私だけは特別だ**と意識されたんですね、聖書を翻訳した方が。でも直訳は“私だけで、ほかにはいない。”

この表現は**イザヤ書**に 8 回出て来ますが、そのうち 6 回は、神が自分の唯一性を主張する時に使う独特の言い回しなんですよ。

### **イザヤ書 46 章**

**9. 遠い大昔のことを思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。**

前もって預言し、世界の事々を予め語っていて、それを告げ知らせることができる神は、聖書の神以外にはいない。**わたしが神である。ほかにはいない。**聖書の神だけが本物の唯一神なのだ、ということを主張する時に「わたし以外ほかにはいない」と仰るんです。

それをバビロンが言っている。神が自己紹介で使っている表現で、バビロンが自己紹介している。バビロンはこう言っているんですね。「私が唯一の神である。私が神で、私のほかにはいない。」その意味で「私は女王として座し、やもめではない。だから悲しみにあうことはない。」「私は女王だ。滅びることはない。悲しいことが起こることはない。」これが、バビロンという国の特徴です。

### **黙示録 18 章**

**8 これらのことのため、一日のうちに、様々な災害、死病と悲しみと飢えが彼女を襲います。**

**そして、彼女は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は、力ある方なのです。」**

一日のうちに、様々な災害。これが7つの鉢です。7つの鉢の1番目-5番目が死病と悲しみと飢え。太陽が人々を炎熱で焼くのが何か月も何年も続いたら、そんなのあり得ない。その瞬間に人がいないです。艱難時代の最後の最後、大バビロン帝国（彼女）の首都を一日のうちに、様々な災害（7つの鉢の災害）が襲います。

①腫れもの ②川が打たれて生き物が全滅 ③海の生き物が全滅 ④太陽が炎熱で人々を焼く  
⑤暗闇。苦しみで舌を噛む ⑥ユーフラテス川が涸れ、反キリストが全ての軍隊を率いてハルマゲドンに行く。反キリストはいつもは大バビロンにいますが、6番目の鉢がぶちまけられる時、大バビロンを留守にします。どこにいますか？ ハルマゲドン。この留守の間に大バビロンが崩壊するんです。

**そして、彼女は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は、力ある方なのです。」**

主は主権者という意味で、神は最終的には悪をそのままにしておかれない。悪は最後 滅ぼされる。神の正義は必ず、予定通り実現するという事です。この「」はずっと続いているんですね。もう一つの声が、このことをバビロンにいる信者たちに伝えているのです。

最後に一つお話ししたいことがあります。イギリスの批評家 G.K.チェスタトン（1874-1936）の『正統とは何か』。有名な本で、オーソドキシシー／Orthodoxy ですよ。ええ。  
“保守というものを理解するためには この本は欠かせない”と言われている、元祖テキストみたいな本です。チェスタトン、弟さんも作家なので ちょっと紛らわしいんですけど。

チェスタトンはクリスチャンで、最後カトリックになりました。彼が書いた推理小説の『ブラウン神父』シリーズ、めちゃくちゃ面白いです。どの話だったか覚えてないんですが…、ブラウン神父じゃなかったな…、どうしても思い出せない。それを今、必死に思い出しながらお話ししてるんですが。

チェスタトンがこう言っています。「人を正気たらしめて来たものは、何あろう 神秘主義である 神秘主義の功績、それはすなわち、人は理解しえないものの力を借りて初めて、あらゆるものを理解することができる。」…だから何なの？ということかも分かりませんが、僕はこれはもうねえ。神秘主義的なものって、キリストのことを言ってるんです。

「聖書の話は、現実主義に立って考えれば考えるほど 神秘主義にしか見えないかもしれない。しかし、神秘主義／目には見えない神が この世界を最終的には良くなさる、という観点に立って初めて、色んな不正・不平等・おかしいことについて見抜くことができるようになる。」

彼の推理小説の中の話です。ある人物が敵国（独裁国家）にスパイとして潜入しました。その独裁者の横暴を押さえるために、彼は極秘情報を次々と本国に送るのですが、やがて独裁者が不審に思うんですね。「なんで、我々の極秘情報がこんなにバレてるのか？ この中に裏切り者・スパイがいるんじゃないか？」 それで粛清が始まり、むごたらしい拷問。特に恐ろしいのが、独裁者が信頼している片腕の人物を「おまえだろう！」と。

独裁者に摘発されたら一巻の終わりだと、このスパイは心身をすり減らして倒れそうになる。でも、今姿を消したらバレる。絶対逃げ切れるというルートを確認しない限り、出て行くこともできない。逃げ場がない、どうしようもないという状況の中、あることから、独裁者のその片腕が味方だということに気がついた。

敵陣のど真ん中で、たった 1 人で頑張っていると思っていたら、敵陣のもっと奥深いところにくさびを打ち込むように、先にスパイが潜入していた。そして、どんなシーンになっても味方がいる。1 人だけで戦っているんじゃない。恐るべき独裁者のすぐ隣に味方がいて、最後には守ってくれる。それを信じられるので落ち着きを取り戻していく…という類のストーリー。タイトルが分かったら教えてください。どうしても思い出せない。帰ったら家探ししようと思っています。

大バビロンのど真ん中で、艱難時代のクリスチャンたちは、なぜ正気を保つことができたんでしょう？ 神はご覧になってる。神は最終的に決着をつけてくださる。悪がいつまでものさばることはない…と信じていることが出来たからだと思います。

既に反キリストの力が働いている、と新約聖書は書いています。聖書預言を通して、あなたの強力な味方となってくださる方／私たちの救い主である方／イエス・キリストについて、ぜひ知ってください。長くなりましたが、ここで終えたいと思います。最後までご清聴ありがとうございました。

^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^

- \* 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』
- \* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」
- \* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約 15 分) もぜひどうぞ。YouTube もあります。
- \* YouTube「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。